



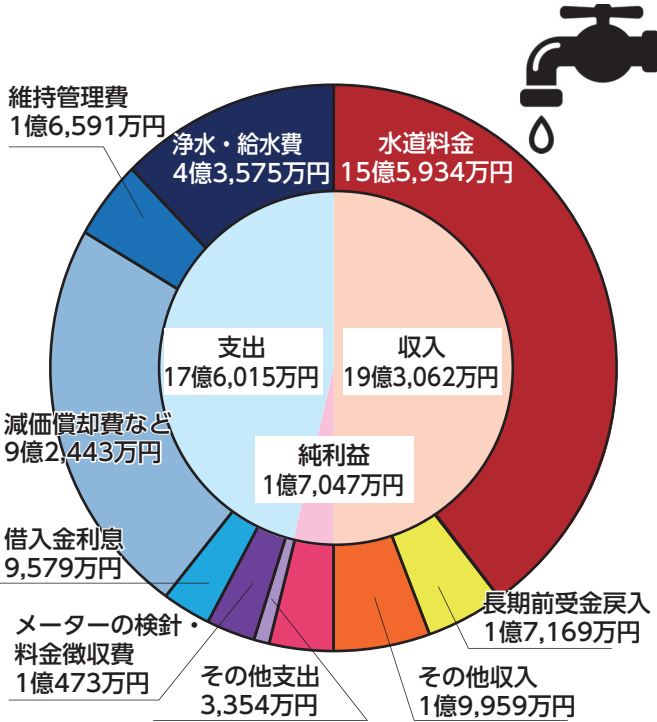
水道は黒字を維持するも収入減、 下水道は営業赤字15億円

企業会計は、利用料金などの収益で運営している会計のことを言います。

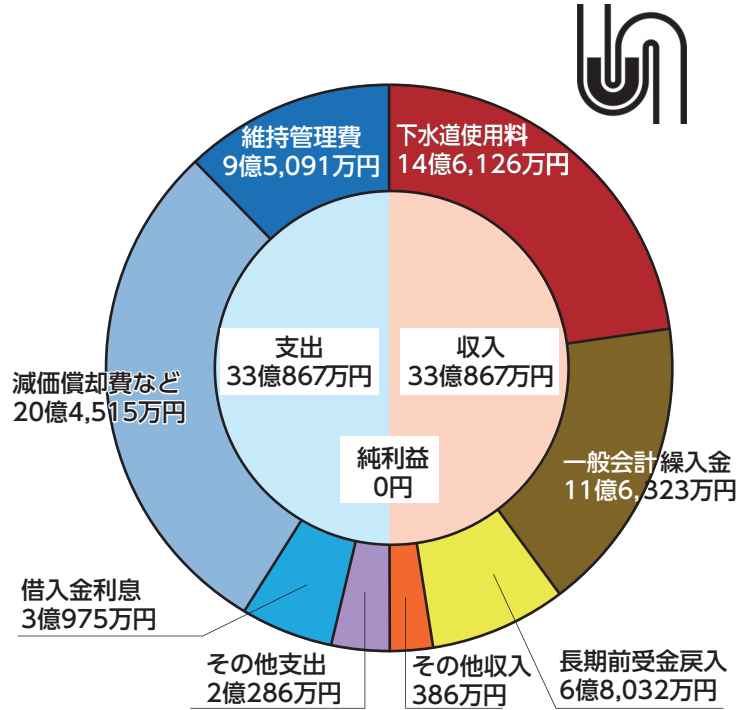
水道・下水道事業ともに利用料金だけでは、維持管理費などの経費を賄うことができない状況です。

*数値は四捨五入しているため、合計や差し引きが合わないところがあります。

水道事業



下水道事業



【現状】

最終的な収支は1億7,047万円の黒字となりました。一方で、前年度に続いて新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食業や宿泊業などの水需要が落ち込み、**水道料金収入は減収となりました。**水道料金収入だけで水を作る費用を賄えない**原価割れの状況**に陥っています。

【今後の見通し】

平成9年度の料金改定以降、維持管理費の削減や計画的な企業債残高の縮減などを進め、営業利益の確保に努めてきましたが、3年連続で営業損失が発生し、厳しい経営状況が続いています。

今後も給水人口の減少による水使用量の減少や、新型コロナウイルス感染症の影響が不透明な状況ですが、水道水の安定供給のため、**水道施設の老朽化対策や耐震化対策、災害対策に取り組んでいきます。**

問合せ 上水道課 ☎ 35-3149

【現状】

最終的な収支は0円となりました。一方で、下水道使用料収入から下水道の維持管理費などを差し引いた収支(営業損益)は、**15億3,327万円の赤字**となっています。この**赤字分の約75%を一般会計からの繰入で補っているのが現状で、非常に厳しい経営状況**となっています。

【今後の見通し】

人口減少などにより下水道使用料収入の減少が見込まれ、経営状況はますます厳しくなると予想されます。今後、施設の統廃合を始めとする徹底した経営の効率化を進めていきますが、それでも解消できないほどの継続的な資金不足が見込まれています。

赤字決算を回避するために、**下水道使用料の改定による収入の改善を検討していきます。**

問合せ 下水道課 ☎ 35-3150